

2022年8月 教会行事予定表		
曜	午 前	午 後
1 月	北海道私立幼稚園協会全道大会(Zoom) 登別カトリック聖心幼稚園お泊まり会	
2 火	OPC 10:00 登別カトリック聖心幼稚園お泊まり会	
3 水	こっとな倶楽部 10:00	
4 木		キリスト教講座 18:00
5 金	キリスト教講座(登別教会) 10:00	
6 土	ミサ 10:00 掃除(太平洋)・キリスト教講座②11:00・北海道カトリック学園理事会(Zoom)	
7 日	ミサ 9:30 典礼当番(太平洋) 8月運営委員会	
8 月	北海道私立幼稚園研修会(室蘭ガス文化センター15:00~17:00)	
9 火	OPC 10:00	
10 水	こっとな倶楽部 10:00	
11 木		
12 金	キリスト教講座(登別教会) 10:00	
13 土	ミサ 10:00 掃除(太平洋)キリスト教講座 ②11:00	
14 日	集会祭儀9:30 典礼当番(蘭岳) 例会日	共同墓参14:00
15 月		聖母マリア被昇天ミサ18:00
16 火	OPC 10:00	
17 水	こっとな倶楽部 10:00	
18 木		キリスト教講座 18:00
19 金	キリスト教講座(登別教会) 10:00	
20 土	ミサ 10:00 掃除(太平洋)キリスト教講座 ②11:00	
21 日	ミサ9:30 典礼当番(楽山)	
22 月		
23 火	OPC 10:00	
24 水	こっとな倶楽部 10:00	
25 木	北海道カトリック学園園長会議(Zoo)13:00~15:30	キリスト教講座 18:00
26 金	キリスト教講座(登別教会) 10:00	
27 土	ミサ 10:00 掃除(太平洋)キリスト教講座 ②11:00	
28 日	集会祭儀 9:30 典礼当番(白鳥)	
29 月	北海道司祭月例会 勝谷司教様霊名のお祝い(聖ベルナルド)	
30 火	OPC 10:00 登別カトリック聖心幼稚園始業式	
31 水	こっとな倶楽部 10:00	司祭評議会13:00



今年の
共同墓参
8月14日(日)
14:00~
望洋台霊園

典礼当番の地区表					
		7月	8月	9月	10月
1週	ミサ	白鳥	太平洋	蘭岳	楽山
2週	集会	太平洋	蘭岳	楽山	白鳥
3週	ミサ	蘭岳	楽山	白鳥	太平洋
4週	集会	楽山	白鳥	太平洋	蘭岳
5週	ミサ	楽山			白鳥
	掃除	蘭岳	太平洋	白鳥	楽山

キリスト教講座

- ・キリスト教講座②
隔週土曜日、午前のクラスは、8月いっぱい、毎週あります。
- ・キリスト教講座①
毎週木曜日、夜のクラスは8月11日は祭日でお休みです。

2022
7/10

ひとつになるう

カトリック東室蘭教会広報誌 毎月第2日曜発行

カトリック東室蘭教会
〒050-0073
室蘭市宮の森町4-9-7
0143-44-3851

「白髪になってもなお実を結び」 (詩編92・15) 第2回「祖父母と高齢者のための世界祈願日」 教皇メッセージ

最愛なる仲間の皆さん

詩編92の一節「白髪になってもなお実を結び」(15節)は、よい知らせ、真の「福音」であり、第2回「祖父母と高齢者のための世界祈願日」の機に、世に告げ知らせるべきものです。これは、この年代についての世の見方とは逆行するものであるとともに、わたしたち老人の中に見られる、ほとんど希望もなく、もはや未来への期待もなく過ごす人のあきらめの姿勢とも正反対のものです。

多くの人にとって、老齢は恐怖です。どうにか避けたい病気のようなものとして、それは捉えられています。老人は自分には関係ない——そう彼らは考え——、なるべく離れて、できれば皆で介護施設で暮らしてもらい、面倒を見なければならぬ状態は避けたいと考えています。それが「使い捨て文化」です。こうしたメンタリティは、自分たちはあの弱い人とは違うのだ、あの人たちの脆弱性とは無関係だという気にさせて、「わたしたち」と「あの人たち」にはそれぞれ別の道があると思込むことを正当化します。しかし、本当のところ、聖書が教えているように、長寿は祝福であり、老人は疎まれる存在ではなく、いのちを豊かに与えてくださる神のいつくしみの生きたしるしです。高齢者を世話する家庭は幸いです。祖父母を敬う家族は幸いです。

確かに、老いというのはなかなか理解しがたく、それはすでに老いを経験しているわたしたちにとっても同じです。長い旅路の後にやってくるとはいえ、だれ一人として覚悟してはこないので、不意打ちを食らったように感じます。先進国では、この年代に対して多くを投じていますが、老齢期についての理解を助けてはくれません。介護事業はあっても、実存に関する事業はありません1。だから、未来について考え、目指すべき地平を捉えることが難しいのです。一方では、老いを払いのけようと皺(しわ)を隠し、いつまでも若いふりをしながらも、他方では、もはや「結べる実」はないとあきらめて、楽しみにすることもなく過ごしていくしかない、そんなふうになっています。

引退し、子どもが独立したことで、これまでエネルギーを注いできたモチベーションを失います。体力の衰えを実感した

り、病気になったりすることで、自信が揺らぐこともあります。世の中の流れは速く、わたしたちはそれについていくのが大変ですが、ほかに手段がないように思い、自分たちは用なしなのだという考えを受け入れてしまいます。だから詩編の祈りはこう叫ぶのです。「老いの日にも見放さず、わたしに力が尽きても捨て去らないでください」(71・9)。

しかし、人生のあらゆる時期における主の存在を振り返るこの詩編は、期待する心をもち続けるようわたしたちを招きます。老いて白髪になっても、主はいのちを吹き込み続け、わたしたちが悪に打ち負かされることのないようにしてください。主を信頼するならば、ますます主を賛美する力を得(14—20節参照)、そしてわたしたちは、年を取ること、肉体の自然な衰えやどうにもならない時の経過であるだけでなく、長寿というたまものでもであると気づくでしょう。年を取ること、呪いではなく祝福です。

そのためにわたしたちは、自分を律し、精力的に年を重ねることを学ばなければなりません。霊的な観点からもそうで、神のことばを熱心に読み、日々祈り、秘跡にあずかり、典礼に参加することで、内面を豊かにして年を重ねるのです。また、神とのかかわりとともに、他者とのかかわりも豊かにしていかなければなりません。まずは、わたしたちが心から愛情を注ぐ家族、子ども、孫とのかかわりがありますが、それだけでなく、貧しい人や苦しんでいる人、具体的な援助と祈りをもって接しなければならない人とのかかわりです。これらによってわたしたちは、この世という劇場で単なる観客だという思いに陥らず、「バルコニーから眺める」、窓からのぞくだけにはならないのです。そうはならず、主の存在に気がつけるよう感覚を研ぎ澄ますことで2、わたしたちは「神の家にある生い茂るオリーブの木」(詩編52・10参照)のように、そばで生きる人々にとっての祝福となるのです。

老齢期は、舟に櫓(ろ)を置き隠退の身となる無益な年月ではなく、なお実を結び続ける年代です。わたしたちを待つ新たな使命があり、未来に目を向けるよう招いています。「人間を人間らしくする、気配り、思慮深さ、愛情、これらについてわたしたち老人、高齢者がもつ特別な感受性は、再び多くの人の召命となるべきです。それは、新しい世代に対して高齢者が示す、愛という代案です」3。これは「優しさ革命」への



わたしたちの貢献であり4、メインキャストとしてそれに加わるよう、わたしが皆さんに、愛する祖父母と高齢者に呼びかける、霊的で非武装の革命です。

世界は今、厳しい試練の時を迎えています。まずパンデミックという予期せぬ猛烈な嵐が吹き荒れ、次に地球規模で平和と発展を壊す戦争が起きています。前世紀に戦争を体験した世代がいなくなりつつある今、ヨーロッパで戦争が再び起きたことは偶然ではないでしょう。そしてこのような大きな危機によって、人類家族とわたしたちの共通の家を脅かす他の「伝染病」や他の蔓延する暴力が存在する事実

に、鈍感になるおそれがあります。このような状況の中で、わたしたちは根底から変わる必要があります。心の鎧を脱ぎ、他者は兄弟姉妹なのだと一人ひとりが気づけるようになる回心が必要なのです。そして、わたしたち祖父母や高齢者には大きな責任があります。自分の孫に注ぐ、理解ある優しいまなざしと同じまなざしで他者を見ることを、現代の人々に教える責務です。わたしたちは、隣人を気遣うことで人間性を磨いてきました。だから今日わたしたちは、弱い立場の人に優しさと思いやりを忘れない生き方を示す、師匠となっているはず

です。わたしたちの姿勢は、弱さや服従と誤解されるかもしれませんが、地を受け継ぐのは柔和な人であって、攻撃的な人でも地位を悪用する人でもありません(マタイ5・5参照)。

わたしたちが実らせるべき果実の一つは、世界の面倒を見ることです。「わたしたちは皆、祖父母の膝に乘り腕に抱かれる時代を経てきたのです」5。今日こそ、おびえている多くの孫たちを膝の上で抱きしめる時です。まだ知り合うに至らない、そしてどうにか戦争から逃れることができたか、あるいは戦争で苦しんでいる孫たちを、物理的な支援によって、またひたすら祈ることで、膝の上に抱くべき時です。穏やかで面倒見のよい父である聖ヨセフのように、わたしたちも心の内で、ウクライナ、アフガニスタン、南スーダンの幼子たちの面倒を見ていきましょう。

わたしたちの多くは思慮と謙遜で磨かれた意識を身に付けていますが、それを世界は緊急に必要としています。わたしたちは一人では救われない、ともに食べるパンこそが幸福、そうした意識です。対立することで自己実現や成功が得られると思

い込んでいる人たちに、それをあかしてください。だれもが、どんなに弱い立場の人でも、できること

です。わたしたちが面倒を見てもらうということ自体が(世話する側の多くは外国から来た人

たちです)、ともに生きること

は可能であるばかりか必要なことだと表明する、一つの手段

です。親愛なる祖父母の皆さん、親愛なる高齢者の皆さん。今のこの世界においてわたしたちは、優しさ革命の担い手となるよう招かれています。わたしたちが手にしたもっとも尊い道具、わたしたちの年代にもっともふさわしい道具を、もっとたくさん、もっと上手に使うことを覚え、それを果たしていきま

しょう。その道具とは、祈りです。「わたしたちも祈りの詩人になりま

しょう。自分のことばを探す喜びをつかみ取りま

しょう。わたしたちに神のことばを教えてくれるものを取り戻しましょう」6。わたしたちの確信に満ちた祈りは、多くのことをもたらすはず

です。苦しんでいる人々の痛みの叫びに重なるものとなり、人々の心を変える助けとなるはず

です。わたしたちは、「美しい霊的な聖域が続く『合唱』を紡ぎます。そこでは、懇願の祈りと賛美の歌が、人生という場で懸命に働き、あがく社会を支えているのです」7。

そうしたわけで、祖父母と高齢者のための世界祈願日は、主によって――聖書にあるように――「長寿をまっとうした」人たちと祝宴を開きたいのだと、あらためて喜びをもって教会が告げる日

なのです。さあ、皆でお祝いしましょう。皆さんの小教区や共同体でこの日を宣伝してください。そして孤独に苦しむ高齢者を、家でも施設でも彼らの暮らす場を、訪ねてくだ

さい。だれもこの日を独りで過ごすことがないよう

にしましょう。待っていてくれる人がいることで、未来に何の楽しみもなくなった人の日々の向かう先が変わり、最初

の出会いから新しい友情が生まれるかもしれません。一人暮らしの高齢者を訪問することは、現代におけるいつくしみのわざ

です。優しさの聖母、マリアに願いましょ

う。わたしたち皆が優しさ革命の担い手となっ

て、孤独の影と戦争の魔の手から、世を解放することができ

ますように。

わたしが送る祝福が、皆さんを愛をもって心に留めている

という約束とともに、皆さんと皆さんの大切な人たちに届きま

すように。ですから皆さんも、わたしのために祈ることをどうか

忘れな

いでください。9月11日(日) 年間第二十四主日、集会祭儀(楽

山地区典礼当番)、例会日

9月18日(日) 年間第二十五主日、ミサ(白鳥地区典礼当番)

9月25日(日) 年間第二十六主日、集会祭儀(太平洋地区典礼当番)、

10月2日(日) 年間第二十七主日、ミサ(楽

山地区典礼当番)、ミサ後7月の運営委員会

10月9日(日) 年間第二十八主日、集会祭儀(白鳥地区典礼当番)、例会日

10月16日(日) 年間第二十九主日、ミサ(太平洋地区典礼当番)

10月23日(日) 年間第三十主日、集会祭儀(蘭岳地区典礼当番)

10月30日(日) 年間第三十一主日、ミサ(白鳥地区典礼当番)、ブロック会議(登別)

3.2 ブロック会議報告(7/31)

・祈りと両神父様の挨拶の後、報告事項
どの教会もミサ集会祭儀のほか教会としての行事は自粛中

・宣司評(6/25)報告
自己紹介、シノドス関連報告、運営委員の選出など(議事録参照)

・議事
カトリック正義と平和活動への参加依頼(養島神父から)：世話人、伊達教会渡辺氏
司教区からのコロナ感染防止対策への対応状況
聖歌の歌唱なし、集会・会議は感染対策を実施して開催、食事を伴う行事自粛など

・次回ブロック会議：10/30、13：30、登別教会

3.3 財務報告
別添資料参照。特に問題なし。

3.4 教区宣司評の報告
宣司評委員、山田淳さんに、議事録の配布をお願いした。質問があれば直接山田淳さん

にお願いすることとした。

4. 議 事：

4.1 教会の門柱他について(資料参照)
櫻庭さんから資料に基づき説明があり、ホールの壁の十字架と門柱の大きさも含め、新しい見

積りで契約することとした。工事費は45万円+消費税。

4.2 ざっくばらんの会について
8月21日のミサ後にシノドス纏め等を題材に話し合いをすることとした。

4.3 秋の教会内外の清掃について
9月第四週(9/24)に予定する。カラス対策としての伐採も含め外回りの整理と教会内の大掃除も

予定する。今後は以前のように月一回のミニ大掃除を第四主日に行うこととした。

4.4 地区割の変更について
現在4地区で運営しているが、各地区の信徒数のバランスや活動できる信徒の高齢化により、特に

教会の掃除当番が地区によっては困難になってきているので、地区割の変更が必要かどうか検討したが、Sr,の支援も受けて当分地区割は変更しないこととした。

4.5 8月からのミサ、集会祭儀の典礼当番について(確認) 4ページの表をご覧ください

4.6 その他

・聖堂への空気清浄機(Air dog)の導入について
コロナ感染防止対策として換気

の重要性が強調されています。当教会でも換気に十分な注意を払って

おりますが、対策は換気口の解放であり、冬季の防寒対策への課題もあります。そこで最近その有効性が注目されている空気清浄機(Airdog)の導入を検討したい。

検討の結果、扱い業者などを調べ詳細を検討することとした(担当：松岡氏)

・教会内土足解放について：神父様から提案があり、実施の可能性について業者(協和ハウス)に相談することとした。

・神父様から教会駐車場の舗装の損傷への対応が提案され、舗装修理用の資材の情報を調べる

こととした(担当：高科氏)

・玄関の雨の吹込みの問題について提案があり、調査することとした。玄関戸の隙間へのパッキンの設置など。

5. ライヤ神父の予定
8/21~8/26 苫小牧メリノールハウス 8/29 司祭月例会、勝谷司教様霊名の祝い
8/30 司祭評議会
9/13 北海道カトリック学園園長会議

6. ミサ・集会祭儀の予定

8/7 ライヤ師 8/14 集会 8/21 ライヤ師 8/28 集会

9/4 ライヤ師 9/11 集会 9/18 ライヤ師 9/25 集会